

東京消防庁における PHSを活用した救急車両用 搬送管理システムの早期構築

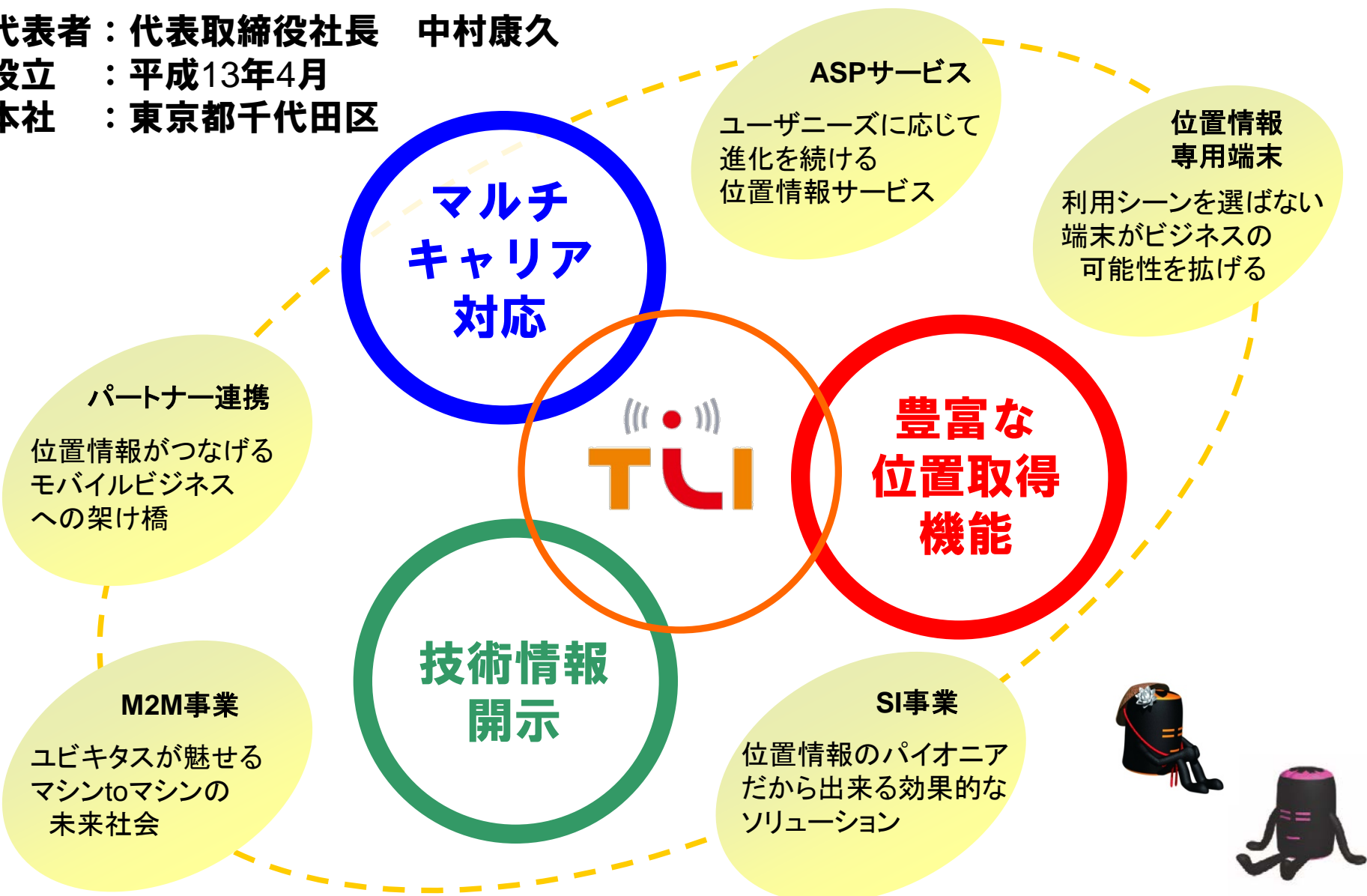


※東京消防庁HPより抜粋

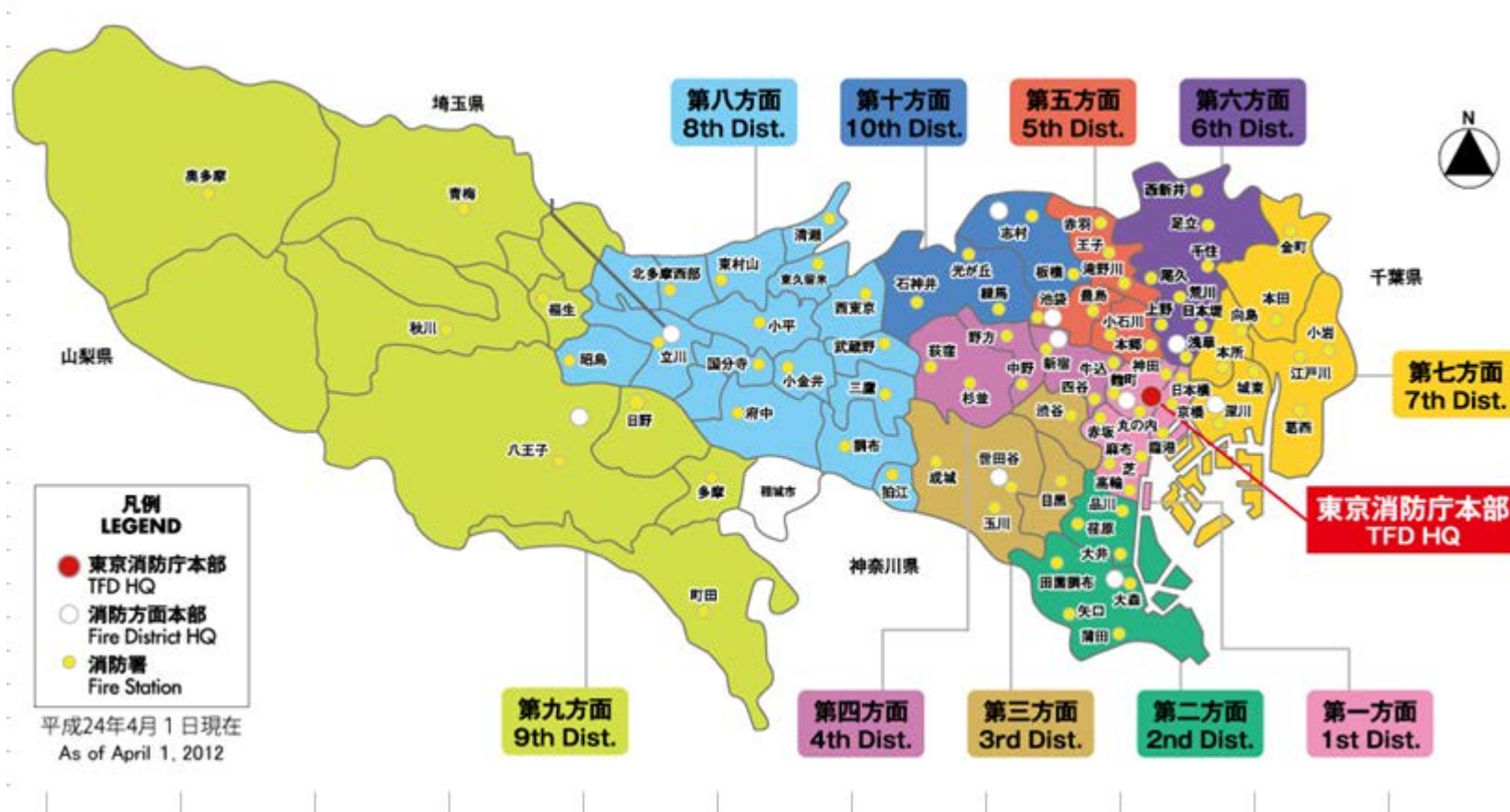
代表者：代表取締役社長 中村康久

設立：平成13年4月

本社：東京都千代田区



東京都の広いエリアを短時間で駆けつける為には、 早期に救急車の動態把握が必要。



※東京消防庁HPより抜粋

広いエリアをカバーする東京消防庁管轄の救急通報は、都内2箇所の情報センタにつながり、そこから救急車へ出動指令がなされ、車両が出動します。

通報

119番通報



119番
火事です！
ケガ人です！



※東京消防庁HPより抜粋

災害救急情報センタ
東京都内2箇所



出動指令

東京消防庁は

広域な管轄エリアの東京都民の生命、身体及び財産を守る為に、
効率よく救急車両の出勤指令をしなくてはならない。



※東京消防庁HPより抜粋



しかし・・・

東日本大震災クラスの大災害が東京で
起きると想定したら、現行のシステムだけではなく、
極めて高信頼なバックアップシステムの
構築と運用が強く望まれる！

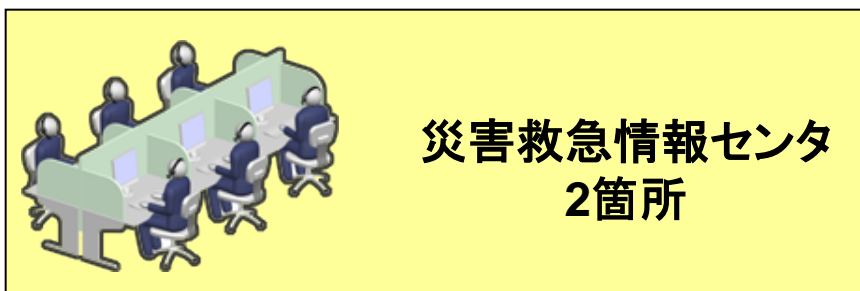
- ①いつ災害が起きるか分からないので、出来るだけ迅速にシステム構築をすることが出来ること。
- ②常時、救急車両の状態を把握することが出来ること。
- ③東日本大震災クラスの大震災が起きてもサービス停止が起きない高信頼性を持つこと。



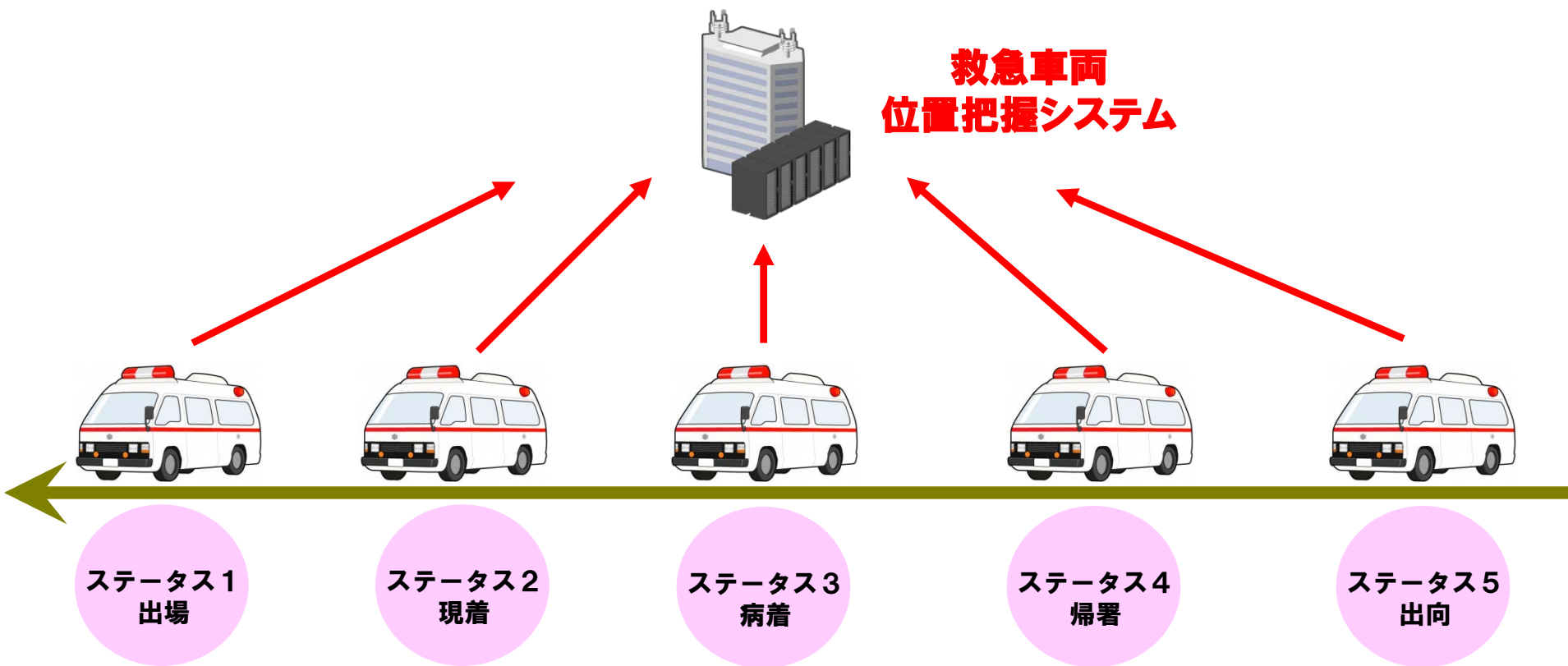
**ウィルコムPHSを
活用すれば実現できる！**

- 災害時でも比較的安定した通信が出来る。
- バッテリー寿命が長く、長時間運用に向いている。
- 医療機器への電磁波影響も少ない。
- PHSによる位置情報通信は電話の発着信制御信号を活用しているのでパケット通信等と比べて、接続時間が早い。

PHSからPHS複数基地局の位置情報と車両の状況報告をPHS網を通じて災害救急情報センタに送信します。

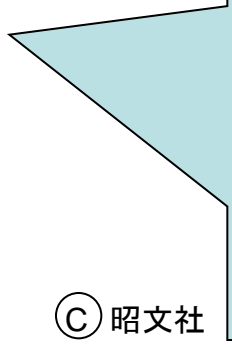


PHS端末から現在の状況を位置情報と一緒に発信します。その後、新たな状態報告が発信されるまでその間の取得結果は、直近の状態情報と位置情報は結びつけられて表示され、常時車両の状態を把握できます。



救急隊のステータスで、待機状態か？
病院へ搬送中か？がわかります。

災害救急情報センタはその情報を基に
効率よく車両に指令が出来ます。



© 昭文社



システムを新規構築するには多大なコストが発生しますが、それを既にある資産で準備することが出来た為に、イニシャルコストが最小。



※東京消防庁HPより抜粋

**現在はバックアップシステムとして
実働しており、都民を守っています。
事故が発生した際に、都民の救われる可能性を
高められることは、代えられない効果となります。**